

第二回東アジア顕微鏡学会議 (EAMC2)

原 徹

国立研究開発法人 物質・材料研究機構

東アジア顕微鏡学会議 (East-Asia Microscopy Conference) は、東アジア地域の顕微鏡学研究的交流を目的として、中国 (CEMS), 韓国 (KSM), 台湾 (MST), そして日本 (JSM) の四地域の学会が輪番で開催しているもので、2013年に第一回が中国の重慶で開催された (会議報告: 松村, 顕微鏡 Vol. 49-1 (2014), 76). この会議は国際顕微鏡学連合 (International Federation of Society for Microscopy, IFSM) とその下部組織であるアジア太平洋顕微鏡学会委員会 (Committee for Asia-Pacific Societies of Microscopy, CAPSM) を基盤とした会議で、それらの主催会議 (International Microscopy Congress, IMC と Asia-Pacific Microscopy Conference, APMC) が行われない年に隔年で開催されることになっている. 重慶での第一回から二年後にあたる2015年11月25日から三日間、第二回の会議が兵庫県姫路市の姫路商工会議所を会場として開催された.

日本顕微鏡学会は第二回のホスト学会として、古屋一夫実行委員長のもと松村晶プログラム委員長 (材料・装置系), 宮澤淳夫プログラム委員長 (生物系) ほかからなる実行委員会と、さらに峰雪芳宣委員長ほか10名からなる現地実行委員会とを立ち上げて準備を進めてきた. 例年同時期に開催される秋のシンポジウムは2015年は開催せずにEAMC2の開催に注力した.

11月25日から始まった会議は、構成する四学会の学会長からの状況報告とそれに続く各学会からの基調講演を軸に進められた. 参加者は330名 (JSM: 194, CEMS: 34, KSM: 49, MST: 37, その他地域: 16), 発表は275件 (口頭139件, ポスター136件) であった. セッション構成と発表件数は表1の通りである. 基調講演 (P) のほか、装置系 (A1), 材料系 (B1-1 ~ B2-2), 生物系 (C1-6) の12の一般 (口頭) セッションと、ほぼそれに対応する形でのポスターセッションが行われた. 事前の計画では、発表の合計を200件程度と見積もっていたが、それを大幅に上回った. そのため一件あたりの発表時間やセッション構成に時間的な余裕がなくなってしまうこと、また、ポスターの配置の密度も非常に高くなってしまったことが反省点である.

Toru Hara: The 2nd East-Asia Microscopy Conference (EAMC2)
茨城県つくば市千現 1-2-1
2016年2月11日受付

表1 セッション構成と口頭発表件数

| | | |
|-------|---|----|
| P1: | Plenary Lectures | 4 |
| A1: | Advanced Development in Instrumentation | 5 |
| B1-1: | Advanced Techniques (TEM/SEM) | 17 |
| B1-2: | In-Situ (TEM/SEM) | 25 |
| B1-3: | SEM (includes FIB/SEM) | 11 |
| B1-4: | X-ray Microscopy | 5 |
| B2-1: | Nano-materials | 15 |
| B2-2: | Structural Materials | 12 |
| C1: | Histology and Cell Biology | 5 |
| C2: | Biology of Plants and Microorganisms | 5 |
| C3: | 3-dimensional Electron Microscopy | 5 |
| C4: | Super-resolved Fluorescence Microscopy | 4 |
| C5: | Molecular Labeling | 4 |
| C6: | Connectmics | 4 |

初日25日は基調講演、一般セッションとポスターセッションが行われた. 二日目26日午前には基調講演と一般セッション、午後は基調講演と写真撮影 (写真1) のあと、(i) Spring-8コース、(ii) 書写山園教寺コース、(iii) 姫路城コースの3コースに分かれてエクスカージョンに行き、その後引き続きバンケットが開催された. バンケットではポスター賞の発表も行われた. 三日目27日は午前中に基調講演と一般セッションがあった. 終了時まで多くの参加者がおり、盛会のうちに閉会となった. その後、一部の参加者は、次世代顕微サイエンス若手研究部会が主催してEAMC2のサテライトミーティングとして引き続き行われたシンポジウムのために、姫路の会場からチャーターバスに同乗して淡路島へ向かった.

会期中は22件の電子顕微鏡および関連周辺機器等の企業等展示や各学会のブースが設けられたほか、8件のランチョンセミナーと2件の冠ワークショップが行われ、最新の情報の収集や交流を行うことができた.

今回の会議に先立って行われた学会代表者の会議で、次回のEAMC3は韓国の釜山で開催することが決定し、バンケットにおいて発表された. 会期は2017年11月7-10日である.

なお、この会議は、参加して下さった方々はもちろんであるが、その他にも多くの方々のサポートのもとで成り立ち、成功したものである. 関わって下さったすべての方に、この場をお借りしてお礼を申し上げる.



写真1 EAMC2参加者全体の集合写真